

農道整備事業（農村整備事業）

人 経済 社会 環境

老朽化の進行が顕在化している農道等の整備・強靱化を行い農村の活性化を図ります。

●農道整備事業（強靱化型）

地域防災計画において避難路等に指定されている農道や、主要道路・鉄道の跨線橋、跨道橋など人命、財産等への影響が大きいものを対象に整備を行います。

老朽化が進む農村地域のインフラの持続性を確保するとともに農村の活性化を図ります。



整備中の農道（甲賀市）

事例紹介

鹿深2地区（甲賀市）

鹿深広域農道は整備後30年以上が経過した基幹農道です。一般車両が増加し、国道1号や国道307号、主要地方道草津伊賀線、さらに新名神高速道路や名阪国道への接続道としても利用され、老朽化や劣化が進んでいます。



甲賀広域農道（甲賀市）

事業名／県営農道整備事業（農村整備事業）
 実施年度／令和3年度～令和8年度
 総事業費／886,000千円
 受益面積／6,661ha
 事業内容／・舗装工 15,500㎡
 ・擁壁工 11箇所
 ・防護柵工 990m
 ・橋梁工 1橋
 実施主体／甲賀農業農村振興事務所

舗装のひび割れやわだち掘れ等による走行性の悪化や、ブロック積み擁壁の座屈、橋梁の伸縮装置の劣化等により農業車両の交通の安全性や円滑化に支障をきたしています。このことから予防保全を中心とした維持管理事業での対応が必要であり、農業の生産性の向上および農産物流通の合理化、農村地域の生活環境の改善に向けて取り組んでいます。

農業集落排水事業

人 経済 社会 環境

農業集落における汚水の処理・循環利用を目的とした施設等を整備し、農村集落の環境改善を図ることで、生産性の高い農業の実現、活力ある農村社会の形成および循環型社会の構築を推進します。

昭和50年代から整備してきた農業集落排水施設は平成28年度に供用率100%を達成しました。

現在は、供用開始から30年以上経過する施設が増加し、老朽化・機能低下の進行が大きな課題となっています。

このことから、施設の機能を回復するため、老朽化した施設の適正な更新時期を把握するための、機能診断調査と処理施設の改築更新を行う機能強化対策を実施しています。

農業集落排水施設の整備状況（R7.3末現在）

		施設数	集落数
下水道区域内	統合済	69	329
	統合予定	100	
下水道区域外		55	91
全体		224	420
機能強化		70	138
機能診断		69	129



前処理室排気ファン更新



ブロワ機器更新



DO計更新



機能診断調査（汚泥引抜ポンプ）